

交通渋滞はドイツ語でマーマレード

Traffic Congestion is Alternatively Termed
“Marmalade” in German
Shumuel N. Eisenstadt

シュミュエル N.
アイゼンシュタット

杉田 シャローム(今日は)。今回の来日は比較文明学会でのご講演においでになったようですが。

アイゼンシュタット シャローム・シャローム。ええ、大阪での会に出席し、今日新幹線で東京にまいりました。来日は三度目です。

杉田 初めて日本においでになったのはいつですか。

アイゼンシュタット 25年前です。

杉田 アラ、私も25年前、イスラエルを初めて訪れました。初めての日本の印象は如何でしたか。

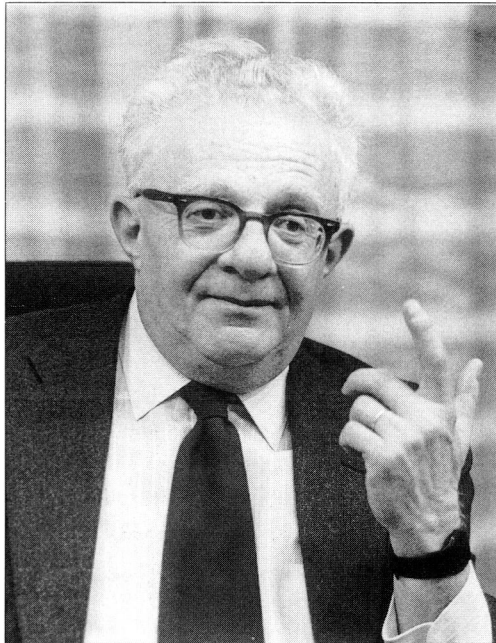
アイゼンシュタット 東京オリンピックの前年で、日本は高度成長時でしたからどこもかしこも工事中。今にくらべ驚くほど英文の標示が少なく大変でした。東京駅にしても、インフォメーション・オフィスが小さくて見つけにくいし、ひどかった。今は良くなりましたね。

杉田 私がイスラエルを訪れたときも、イスラエルは猛スピードの建設ラッシュでした。イスラエル人は胸をはりこういっていました。「今あなたが見ている建設中のこの道路は、一週間後には数メートル先まで伸びているはずだ。道路が良くなると車が增え、事故も増える。それに対して何か対策は？」

アイゼンシュタット 私は自分では運転しません。それに交通学の専門家でもありませんので、いいお答えは出来ません。しかし、一つは話題らしいものを持っています。先月テレビとラジオ局がストライキをしました。車に乗っている人は、車のラジオの

スイッチをニュースの時間になると必ず入れるものですね。ところが、スト中はラジオもニュースなし。夢中で聞くものなし。そうしたら、交通事故発生がガタッと減りましたよ。

杉田 イスラエル人ほどニュースをきちんと聞く人たちはいないと、滞在中感じたものでした。ところで先生は「ドイツ語で交通渋滞はマーマレード」とおっしゃったそうですね。



イスラエル・ヘブライ大学教授。社会学博士。専門は比較文明論。1926年ワルシャワに生まれ、オスロ大、シカゴ大、MIT、ハーバード大の客員教授を歴任。1950年から現職にある。

アイゼンシュタット ええ、そうなんです。ドイツでの学会員でもある阪大の森田先生とドライブ中渋滞にまきこまれ、皆疲れました。そこで私が森田先生に声をかけました。「ドイツ語で渋滞のことを何といいましたっけ」。森田先生は真面目に考えこんでいるんですね。そこで私が「英語ではジャムというでしょう。だからドイツ語ならマーマレードだ」。大笑いになりましたね。

杉田 笑いはストレス解消になります。ところで、シートベルトは着用が義務づけられていますか？

アイゼンシュタット 市外は以前から義務づけられていましたが、つい先頃市内も着用になりました。

杉田 日本のドライバーの

マナーをどうごらんになりますか。

アイゼンシュタット 乗るのはタクシーが多いわけですが、昔にくらべ車も良くなり運転自体も落ち着いてきたし、別に文句いうことはないようです。

杉田 イスラエルでのある日、シャバット(安息日)にあたったら、この日は安息にしていなければなら

インタビューー

杉田 房子

本誌編集委員。旅行作家としてほぼ世界をまわる。専門は海外紀行文、国際生活文化比較論。最近では日本ナショナル・トラストの理事として、自然・歴史遺産に関心を持つ。



ない、だから宗教色の濃い田舎などウロウロしていたり、車を乗りまわしていると石をぶつけられるといわれたことがありました。シャバットの日は交通量が減りますか。

アイゼンシュタット 都会は平日と変わりはありませんが、一部宗教色の強い地域ではタクシーどころかバスも動きません。イスラエルのエルアル航空も飛びません。ですから、場所によってはその掟を守らない者は嫌がられ石を投げられるかもしれません。

杉田 駐車の問題は、エルサレムのような古い町では大変ですね。何か対策は？

アイゼンシュタット エルサレムの市内は、あなたもご承知の通り旧市街は非常に古い博物館のような町です。昔のままの狭い道に車が入りこむので、混乱してスムーズに進めません。駐車するスペースもありません。歩いた方が早いで、私は歩きます。近いところは歩いていますが、遠いところは妻の車で送ってもらいます。

杉田 そうすると、Kiss & Rideですね。

アイゼンシュタット 私のKiss抜きRideっていうところかな。なにしろ車の駐車場探しの苦労が多いし、時間のロスもありますから妻に送ってもらいます。妻の買物にしても、町中では店の近くに車を置けないので、少し遠くても駐車場の完備したところまで出かけているようです。それにイスラエルでは、車は輸入品ですから税金が高いんですよ。ものによると車自体の値段より税金の方が高いこともあるんです。

杉田 日本のように比較的安く車を入手できないところからきているのでしょうか。若い兵役に服している人たちが道路わきに立って、親指を立てて車を停めるヒッチがとても目につきました。あれは今もやっていますか？

アイゼンシュタット ええ、やっていますよ。一部の地域ですが。兵役の人たちが乗せてほしいと指を立ててサインを出せば、なるべく乗せてあげようと誰もが思います。彼らが早く目的の場所に着くよう

お手伝してあげるため、車を停めます。もちろん、自分がとてもいそいでいれば、通過しますが。

杉田 イスラエルで取材中使わせていただいた車のドライバーは、「空席なし、通過」といいながら、美人兵士が立っていると「マイ・タイプの女性だから、空席つくって乗せてやりたいな。誰か代ってあげたら……」などいっていました。

アイゼンシュタット その通り。私も「マイ・タイプ」の女性だったら車に乗せてやりたいですね。

杉田 ヒッチで乗せてあげたために、トラブルに巻きこまれた話をききましたが、これは兵隊さんに限り乗せてあげるのですね。

アイゼンシュタット もちろんそうです。充分に気をつけなければならないことです。

杉田 息子さんがカナダのバンクーバーに留学中とか、スペインの話とか、世界各地の地名が飛び出してきて楽しい。ご専門である比較文明学のためにも旅行をなさるのですか。

アイゼンシュタット 趣味は？ときかかれたら「旅行」と答えます。長い空の旅は疲れますが、旅は楽しい。訪れた国で、多くの人たちと語り合い、お互いに理解し、発見しあうことは素晴らしいことではありませんか。そして、大好きなクライムストーリーを読む。アガサ・クリスティのものなどよく読みますね。旅行は「一時的移民」。面白いですね。

杉田 楽しいお話をありがとうございました。第4回目の来日をお待ちしています。

インタビュー後記

(昭和62年11月16日実施)
 た。昭
 が、和
 は、6
 魅力ある先生で、
 たいが、2
 めるお姿と偉大な目歴
 産もすていらる。お
 け見せてチャマのい
 たらジイ親に返せよ。
 一緒に遊びますよ。孫が四人、
 さくで話して、笑うし、
 るの対面。大変な先生と
 数の受賞。20余校。加えて
 大学の客員教授として
 数回インタビューに答えて